

2018年10月3日

持続的な完全循環型リサイクル事業モデルが 「2018年度グッドデザイン賞」を受賞

このたびニチハ株式会社の「持続的な完全循環型リサイクル事業モデル[窯業系サイディング端材回収リサイクルシステムとプレカットサービス]」が、2018年度グッドデザイン賞(主催:公益財団法人日本デザイン振興会)を受賞しました。

国の環境政策において、産業廃棄物を発生させない循環型社会の形成が重要な課題となっています。建築業界では工事の過程で発生する産業廃棄物の適正処理が業界全体における環境課題の一つです。新設住宅の外壁の約8割に使用される窯業系サイディングも、施工現場では廃棄物となる多量の「端材」が発生します。これらの廃棄物をいかに削減・抑制することができるかが、われわれ建材メーカーの課題となっていました。

ニチハでは「循環型社会をめざして、もう一度資源へ」をスローガンに、業界に先駆けて2000年1月にいわき工場に「端材リサイクルプラント」を建設し、窯業系サイディングの再生処理を開始しました。2004年6月には、産業廃棄物処理の「広域認定」の許可(認定番号第3号)を受け、全国的な「端材回収リサイクルシステム」の体制を構築。2007年からは、再生処理の体制強化のため、全国11のセメント工場と提携し再資源化も行っています。加えて、2017年12月には、施工現場で発生する「端材」を大幅に低減する取り組みとして、製造・出荷段階での工場内プレカット(ラフカット)サービスを導入しました。製造・施工・回収処理の各過程における「3R(Reduce、Reuse、Recycle)」の実現により、リサイクル率100%を目標に掲げ、「持続的な完全循環型のリサイクル事業モデル」を展開、推進しています。

ニチハでは、2012年の「モエンエクセラード16 キャスティングウッド」、2013年の「オフセットサイディング」、2014年の「Fu-ge」、2016年の「COOL」に続き、このたび5度目の受賞となります。

■ 受賞対象名: 持続的な完全循環型リサイクル事業モデル
[窯業系サイディング端材回収リサイクルシステムとプレカットサービス]

■ グッドデザイン賞審査委員による評価コメント

「窯業系サイディングが新設住宅の8割を占める外壁材となっている反面、リサイクル率が低い現状に対して、製品加工プロセスやセメント工場との連携などによって総合的にリサイクル率を高めようとする取り組みは意義あるものである。まだリサイクル率が低いので、今後更なるリサイクル率の向上と、リサイクル用途の製品開発にも期待したい。」



GOOD DESIGN
AWARD 2018



以上